

月影



第58号

闇があるから
光がある



平成二十九年九月十五日発行
浄土宗西山禅林寺派
常林院

闇が深いほど
微かな光が
見えてくる

苦悩が大きいほど
本当に大切なものが
見えてくる

暗闇が
縁となって
光に気づき

苦悩が
縁となって
大切なものに気づく

仏さま巡礼

薬師如来



薬師如来は、病を治してくれる仏さまとして古くから信仰され、現在も「お薬師さん」と親しみを込めて呼ばれている如来さまです。奈良の薬師寺の金堂にある国宝薬師三尊像が有名です。

特徴は薬壺

薬師如来は、左手に薬壺（やっこ）と呼ばれる薬の壺を持って、この薬壺には万病を治す薬が入っていて、いくら使っても減ることはないといわれています。



薬壺（やっこ）

姿形は釈迦如来

薬師如来と釈迦如来は姿形が同じなので、薬壺が失われていると釈迦如来と区別ができません。古くは薬師寺の薬師如来のように薬壺を持たない像も造られています。



薬師寺 h p より

たり、長い歴史の中で失われることも少なくありません。

その場合は、仏像に記された銘文や言い伝えによって薬師如来と判断されるのです。また、薬師如来の両脇には日光菩薩と月光菩薩（がっこう）がおり、薬師如来を供養するものを護り助ける十二神将（じゅうにしんしょう）もまつられています。薬壺がなくても、これらの像の中央におられると薬師如来であることが分かります。

病を治し寿命をのばす

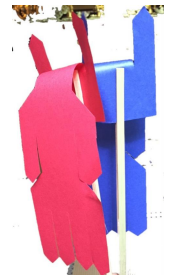
薬師如来は菩薩の時、如来になるために十二の大きな誓いを立てて修行をされました。そして、その大願を成しとげられて如来になったといわれています。この大願の中には、

- ・ 病をいやす
- ・ 寿命をのばす
- ・ 飢えに苦しむ者に食を与え
- ・ 衣服がない者に衣服を与える

というような願いがあります。これらの願いは、この世で人々の利益となる功德が強いため、早くから広く信仰を集めることになりました。そして、たくさんの方々が薬師如来像が造られるようになりまし。

彩寺記

ほんせがきほうよう
盆施餓鬼法要



施餓鬼旗

八月十六日、盆施餓鬼法要を当寺で勤めました。

施餓鬼法要を申し込まれた方、そして永代祠堂、永代供養をあげておられる方の供養をさせていただきました。夕方にもかかわらず、たくさん檀信徒の皆様が参りにみえました。

施餓鬼法要では、阿弥陀様の向かい側に施餓鬼棚を置きます。組寺四ヶ寺の住職と共に読経し、各家の諸精霊を供養しました。檀信徒様には順番に施餓鬼棚でお焼香を

していただき、法要後、施餓鬼旗をお渡ししました。

また、来年も皆様と一緒に法要を勤め、再びお浄土へお帰りになるご先祖様をお送りしたいと思います。

皆様のお参りをお待ちしています。



雑記抄

話を聞く

先日、子どもが犬に本の読み聞かせをしてこの犬は読書介助犬というそうです。▽読書や人前で本を読むことが苦手な子どもが、静かに聞いてくれる犬に読み聞かせをすることで、本を読む自信につながるそうです。▽読み違えても途中でつまっても、何も言わずにすべてを受け入れ聞いてくれる犬に、子どもは安心して読むことができますよ。うです。▽当寺にも十二才になる蓮(れん)という犬がいます。朝、ガレージのところにつかないでいると、出勤途中の方が蓮に声をかけます。中にはわざわざ

自転車から降りて、蓮をなでながら話しかけている方もおられます。蓮は何も言わずただ話を聞いています。話しかけた方が笑顔で再び会社へ向かわれます。▽そんな様子を見るたびに、「話す」ことに力を入れて、おろそかにしがちな「聞く」ということの大切さを蓮に教えられています。



昼寝をする蓮